



平成 26 年 1 月 23 日
海 上 保 安 庁

西之島の火山活動の状況（1月20日観測） ～西之島がさらに拡大～

羽田航空基地所属航空機（MA725 みずなぎ）による1月20日の西之島の火山観測結果を分析したところ、以下のことが明らかになった。

流出した溶岩は東西方向に大きく広がっており、今回の噴火活動により新たに形成された陸地の東西幅は約750メートルに達していた。これにより、新たに形成された陸地は、噴火前の西之島の約1.5倍の広さとなった。

従来からある2つの火口では依然活発な活動が続いていた。南側の火口からは連続的に青白色の火山ガスが放出されるとともに、灰色の噴煙を伴う爆発的な噴火が数分ごとに起きていた。また、その北側の火口では灰白色の噴煙が連続的に放出され、断続的に爆発的な噴火が起きていた。噴火に際しては溶岩が吹きあげられており、航空機の中でも振動（空振）が感じられた。

同乗した東京工業大学火山流体研究センターの野上教授から「火口に熔融状態の溶岩が確認でき、マグマの供給は依然として高いレートで継続している。火山活動の沈静化は認められない。」とのコメントが得られた。

付近航行船舶へは、引き続き航行警報により注意を呼びかけている。

西之島の西方の排他的経済水域（EEZ）が広がる位置まで島は拡大していた。しかしながら、過去に海底火山の噴火でできた新島が後に消滅した例もあり、引き続き活動の推移を見守る必要がある。

なお、領海及びEEZが拡大する範囲を確定するためには、火山活動が沈静化した後に、測量を実施した上で低潮線を海図に記載することが必要である。

西之島で新たに形成された陸地の1月20日時点での形状（暫定値）

- ・ 東西：約750 m （12月26日時点 東西：約500 m）
- ・ 南北：約600 m （12月26日時点 南北：約500 m）
- ・ 面積：約0.3平方km、東京ドームの約7倍に相当
（12月26日時点 約0.15平方km 東京ドームの約3倍）



図1 火口から立ち上がる噴煙と拡大した溶岩流（1月20日撮影）



図2 活発に活動する火口（1月20日撮影）

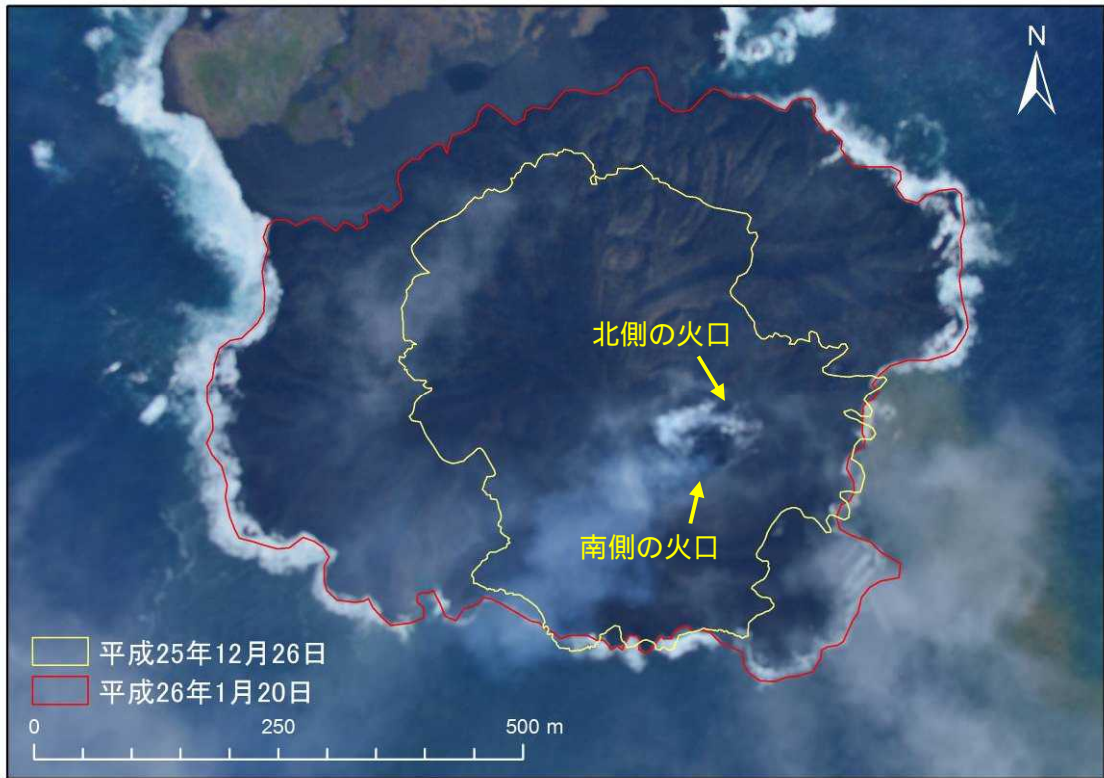


図3 新たに形成された陸地部分の様子（1月20日撮影）

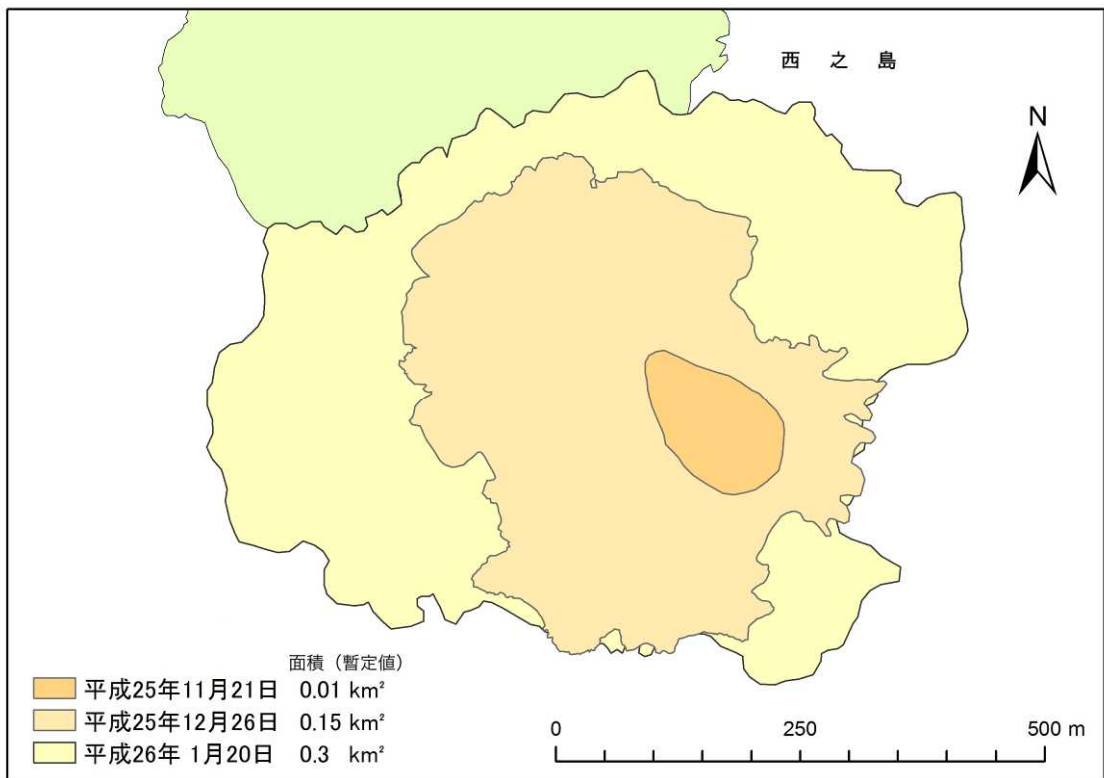


図4 新たに形成された陸地部分の形状変化の様子

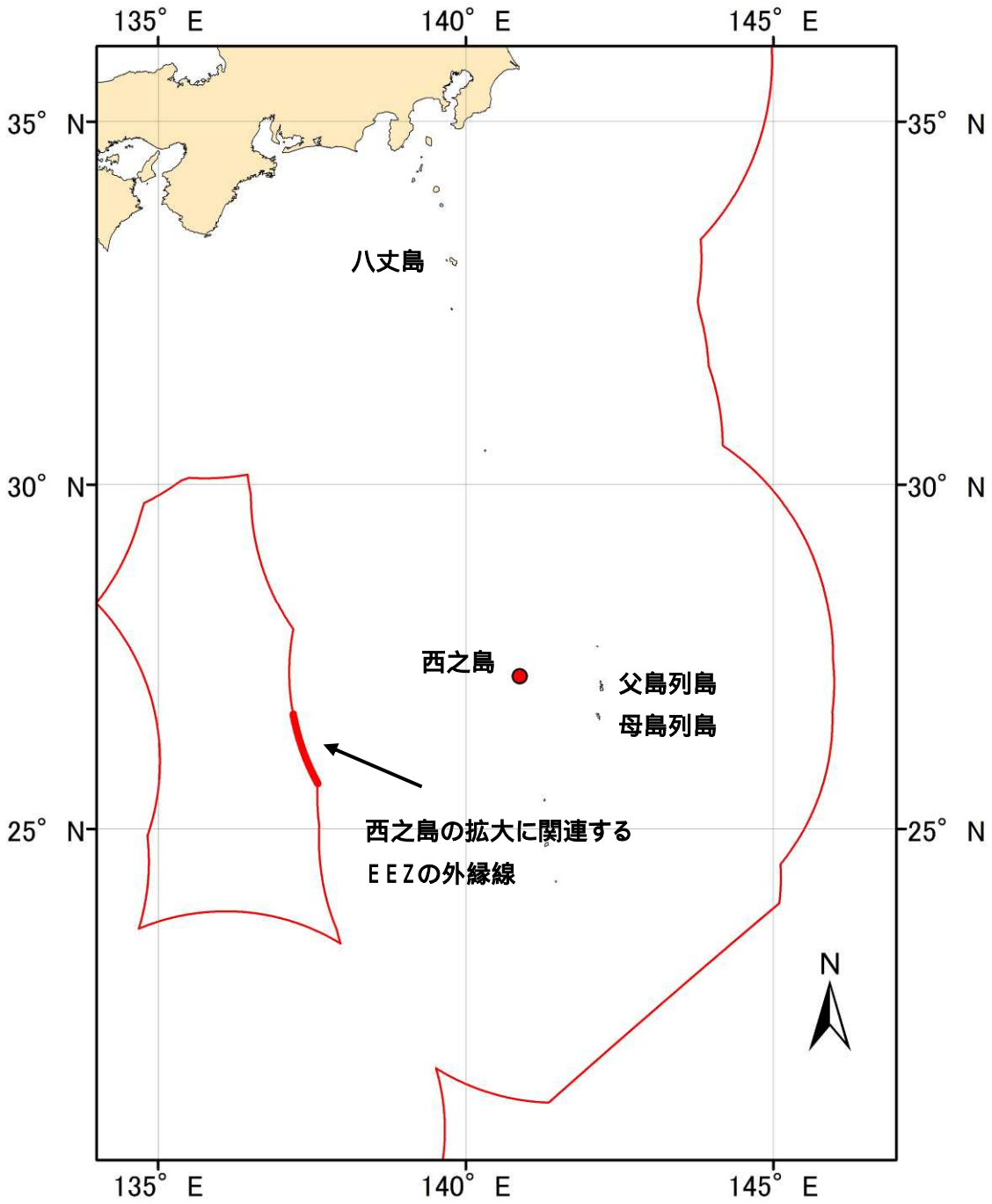


図5 西之島周辺のEEZ外縁